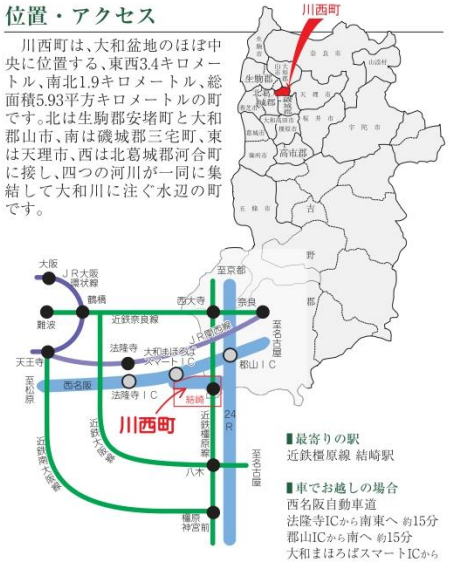
位置・アクセス

川西町は、大和盆地のほぼ中央に位置する、東西3.4キロメートル、南北1.9キロメートル、総面積5.93平方キロメートルの町です。北は生駒郡安堵町と大和郡山市、南は磯城郡三宅町、東は天理市、西は北葛城郡河合町に接し、四つの河川が一同に集結して大和川に注ぐ水辺の町です。



■最寄りの駅
近鉄橿原線 結崎駅

■車でお越しの場合
西名阪自動車道
法隆寺ICから南東へ 約15分
郡山ICから南へ 約15分
大和まほろばスマートICから南へ 約5分

お問い合せ

川西町総合政策課
奈良県磯城郡川西町結崎28番地の1
TEL 0745−44−2213
FAX 0745−44−4734

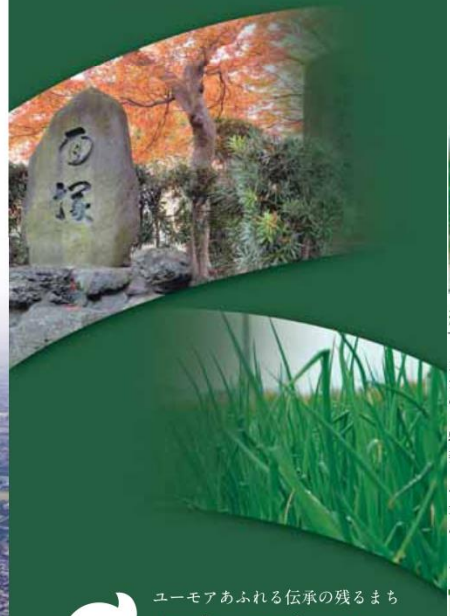
川西町教育委員会事務局
奈良県磯城郡川西町結崎32番地の1
TEL 0745−44−2214
FAX 0745−43−3245

川西町ホームページ
https://www.town.nara-kawanishi.lg.jp/

発行 令和元年8月



室町時代、空から能面がネギが降ってきた！



ユーモアあふれる伝承の残るまち

川西町

室町時代のある日のこと、
一天にわかにかき曇り、
空中から異様な怪音とともに
寺川のほとりに落下物があった。
この落下物は、一個の翁の能面と一束の葱で、
村人は能面をその場にねんごろに葬り、
葱はその地に植えたところみごとに生育し、
戦前まで「結崎ネブカ」として名物になった。

こんなユーモアあふれる伝承の残る
隠れた魅力いっぱいの川西町



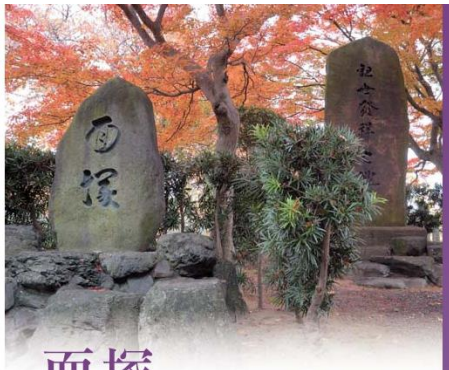
川西町・沿革

川西町は、古くは水運や農業の町として発展してきましたが、近年においては住宅地開発や工業団地の誘致等により、コンパクトな田園都市の機能を備えた緑豊かな町として発展してきました。また「島の山古墳」や「筋違い道」などの文化遺産を有することから、古墳時代には、すでに豪族の存在があったことが推察されます。中世には集落が形成されるようになり、現在の字名が使われ始めました。時代の推移とともに統治者も変わり、幕末には郡山藩の支配下に置かれ、明治22年に結崎・下永・吐田・唐院・梅戸・保田の六ヶ村が合併して川西村が誕生。昭和50年4月に町制が施行されて川西町がスタートしました。



能楽観世流の元となったのは、室町時代に現在の川西町結崎で活動していた猿楽の一座・結崎座です。その結崎座に所属し、大夫（座を代表する役者）を勤めていた観阿弥清次が観世流の初代です。面塚や川西町の田園風景から、農耕が芸能を支えていた観世流のルーツを感じます。

二十六世観世宗家　観世　清和



面塚

めんづか

「結崎に好き男あり。いわゆる世阿弥なり」
天才的な技と、
優美な姿に魅了されてしまった
将軍義満の言葉が、
その当時の能の華やかさを物語る。



「翁」二十六世観世宗家 観世清和　撮影：前島吉裕

能楽「観世流」発祥の里

奈良盆地に広がる田畑の中を流れる寺川のほとりに「面塚」の石碑と、「観世発祥之地」と刻まれた石碑が建つ公園があります。石碑の建立は昭和11年で、発祥之地の碑は二十四世観世宗家観世左近師の筆によるものです。河川改修で位置が変わり、昭和42年に現在の姿になりました。公園を囲む玉垣には奉納した全国の能楽師らの名が刻まれています。

能楽観世流のルーツである猿楽「結崎座」は室町時代、川西町結崎を拠点としました。その大夫（座を代表する役者）を務めたのが観世流創始者・観阿弥で、結崎に住んでいたといわれています。

猿楽は江戸期までの能楽の呼び方で、古代中国から伝わった歌舞や曲芸などの芸能「散楽」が源流とされ、朝廷や社寺の祭礼などで演じられました。平安期ごろから猿楽と呼ばれ、芸能集団「座」が組織されるようになります。室町時代、大和（奈良）で活動していた大和四座の一つ結崎座に観阿弥が加わり、芸能として洗練されました。足利義満に認められて座名も観世座と改め、息子の世阿弥と共に現在の能楽観世流の基礎を築いたといわれています。

大切に守りつづけてきたもの　文化財
時を超えて受け継がれるもの　神社・祭り
約一五〇〇年前の大王が眠る　島の山古墳
一束のねぎ　結崎ネブカ／全国トップシェアの特産品　貝ボタン
一個の翁の能面　面塚

結崎ネブカ

ゆうざきねぶか



マスコットキャラクター
ネッピー

戦前（太平洋戦争前）まで
大和野菜の雄として栄えた
甘くておいしい幻のねぎ

柔らかさのためシャキッとしない見た目の悪さと
市場流通に適さないなどの理由により
次第に忘れ去られていきましたが、
一軒の農家がさかずき一杯の種を残してきました。
近年、懐かしいふるさとの味が再評価され、
伝統野菜として市場に復活することになりました。





結崎ネブカは大和を代表する伝統野菜

結崎をはじめ大和平野の広い地方で栽培されていましたが、特に結崎村（現川西町）で 多く栽培されていたことから結崎ネブカと呼ばれていました。関西でいう「葉ネギ」の一種で九条ネギはその代表。結崎ネブカは「緑葉部が柔らかい」「とろっとした濃厚さ」「甘みが引き立つ」など独特の特色を持ちます。「煮炊き」「焼き」料理に独特の甘みと美味しさが加味されます。

結崎ネブカの出荷は９月初旬から３月まで。寒くなるにつれて次第に甘みが増し、霜が降りるころには結崎ネブカ本来の食味が楽しめます。しかし、その柔らかさゆえに傷みやすく、農家には繊細な栽培が要求されます。

また町内の飲食店では、結崎ネブカを使ったオリジナルメニューを提供してくれる店もあります。くわしくは下記へ。

問い合わせ　ＪＡならけん川西支店
TEL　0745−44−2711

貝ボタン

かいぼたん



海のない町の
とっても意外な特産品

ボタンの原料になる貝（原貝）は
インドネシアやタヒチ、フィジー
などの赤道周辺の諸島から
丸くくり抜いた形（ブランク）の状態で輸入し、
加工・出荷しています。

ブランク状態の貝ボタン





数多くの工程を経て、
国内外の様々なブランドに
出荷されます。

「株式会社トモイ」提供

貝ボタンは全国トップシェアを誇る地場産業

明治20年ごろ、ドイツ人技術者により神戸に伝えられた貝ボタン産業は、大阪から和歌山、そして明治38年ごろには奈良県に本格的に伝わりました。そのころは木綿織物や養蚕業といった産業が衰退するなか、農家の副業として家内工業的に取り入れられました。

原材料となる「貝」は赤道直下の諸国から輸入され、川西町が海沿いの地域であるかどうかは関係ありませんでした。大正時代には、貝ボタン産業は急成長を遂げ、川西町の経済の重要な位置を占めていましたが、戦後間もなく合成樹脂製のボタンが台頭し、貝ボタン産業の変革期を迎えました。

しかし、近年では環境にやさしく、天然素材の奥深い光沢が魅力のほか、レーザー彫刻などの技術革新によって、近代的な技術と昔ながらの手づくり感が兼ね備わった付加価値のある商品として再注目されています。

問い合わせ　川西町商工会
TEL　0745−44−0480
ご購入は　川西ボタン倶楽部　検索

一束のねぎ　結崎ネブカ／全国トップシェアの特産品　貝ボタン

島の山古墳

しまのやまこふん

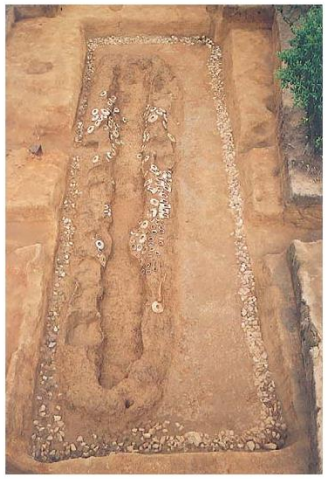
国の史跡でもある
全長200ｍの前方後円墳

島の山古墳は、奈良盆地の中央部寺川と飛鳥川とに挟まれた標高48メートルの微高地に立地しています。全長200メートル、周囲に濠を巡らした典型的な前方後円墳であり、奈良県下の前方後円墳約300基の中では19番目の規模に相当します。

築造されたのは、4世紀末から5世紀初めであったと推定されており、大王クラスの御陵等のいわれがありますが、まだ誰の墓か解っていません。

平成6年から本格的な発掘調査が実地され、前方部の埋葬施設から4世紀の遺物と考えられる車輪石・鍬形石・石釧の三種類約140点の石製腕飾類や碧玉製合子三点・玉製のネックレス三連・左右腕輪・銅鏡三点・小刀及び勾玉や臼玉を中心とした玉類約1,300個が未盗掘の状態で出土しました。





粘土槨と石製椀飾類の出土状況

「阿南辰秀 撮影」



石釧　車輪石　鍬形石

「奈良県立橿原考古学研究所」提供

川西町の豆知識

古墳石室の石が見られる比売久波神社



島の山古墳の周濠西側に接している場所に比売久波神社があります。この神社の本殿と拝殿の間にある平石は、島の山古墳から持ちだされたものといわれています。後円部頂上部の竪穴式石室に使用された天井石で、材質は竜山石（兵庫県高砂市及び加古川市でとれる石材名）です。

神社については次ページにも掲載しています。

約一五〇〇年前の大王が眠る　島の山古墳

糸井神社

いといじんじゃ



約千年前の「延喜式」という書物にも記されている式内社で、由緒ある神社です。
名称のとおり糸に関係がある神社であることは確かで、祭神は同社縁起に記されている豊鍬入姫命（とよすきいりびめのみこと）です。一説には綾羽・呉羽の両神も祭られており、織物技術に関連した氏族が開拓した土地に殖産工業の神を祭ったものと思われます。
本殿は春日大社の若宮本殿から移建されたと言われ、江戸時代の遺構とされています。拝殿に掲げられている絵馬も見どころ。
また、神社には観阿弥が日参して、能の公演の成功を祈願したという言い伝えがあります







秋祭り

糸井神社の秋祭りは、毎年10月の第4日曜に本祭、その前日に宵宮祭が行なわれます。頭屋は地元の５垣内に１人ずついて、御幣と御酒、稲束をつけた柳を担い、「お渡り」が執り行われます。宵宮には夜店なども出店され、にぎやかな雰囲気の中、神事が行なわれます。また10月第2土曜には神事とともに、それぞれの垣内で「子ども相撲」が行なわれます。

子出来おんだ

奈良県無形民俗文化財

こできおんだ

平安時代から伝わるユニークなお祭り

毎年2月11日の夜に、六県神社で昔から伝わるユニークな御田植祭「子出来おんだ祭」が行われます。厄年の男が腹に小太鼓を入れて扮した妊婦が、田植えをしている夫（神主）のもとへ弁当を持っていくと、産気づいてしまい、畦道で男子を出産、夫は妻の腹から放り出された太鼓をたたいて喜ぶという、夫婦愛・農耕勤勉を表現した特異なお祭りです。







比売久波神社

ひめくわじんじゃ

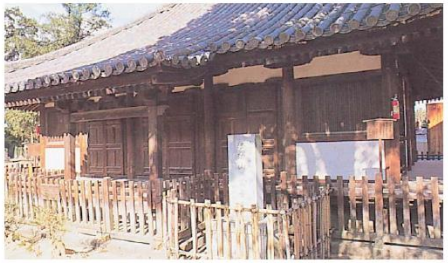
島の山古墳の西側に接し、糸井神社と同じく、「延喜式」に記録されている式内社です。
祭神は、久波御魂神（くわみたまのかみ）と天八千千（あまはちち）姫で織物に関連しています。また、古くは桑の葉をご神体としていたことからも、桑の葉を用いた養蚕に関連する神社であることが推測されます。
本殿は県指定の文化財。



大切に守りつづけてきたもの

文化財

国指定文化財



富貴寺の本堂

南北朝末期の寄棟造の建物。近年まで荒廃していましたが、昭和39年（1964）からの解体修理で面目を一新しています。本尊である木造釈迦如来坐像の背面来迎壁には壁画が描かれています。

富貴寺の木造地蔵菩薩立像

本尊の木造釈迦如来坐像の向って右側に位置する彫眼の像。蓮花座及び輪光は後から加えられたものです。本尊釈迦如来坐像と同様の和様彫刻で、同じころに造られたものです。



富貴寺の釈迦如来坐像

富貴寺の本尊としてまつられている彫眼、漆箔の坐像。平安時代後期でも最末期の和様彫刻の様式が取り入れられています。



光林寺の木造阿弥陀如来立像

上品下生印相を結ぶ玉眼、漆箔の像です。戦後の調査で、足の枘（ほぞ）に「承久三年法眼快慶」の墨書銘がみつかり、鎌倉時代の巧匠、快慶の最晩年の作ということが判明しました。



旧白米寺の木造地蔵菩薩立像

かつては榧材に彩色を施していましたが、現在はほとんどが剥落しています。宝珠・錫杖・光背・台座・白毫は後から付けられたもの。平安時代中期の作風がうかがえます。



旧白米寺の木造阿弥陀如来坐像

八幡神社境内の北東にあった阿弥陀堂に安置されていた白米寺伝来の像。制作年代としては平安後期の様式と考えられます。

県指定文化財



糸井神社の結崎おかげ踊り絵馬

伊勢神宮に群参した「おかげ参り」に発するもので、おかげ参りから派生し幕末に流行した「ええじゃないか」の様子が描かれているともいわれています。慶応4年（1868）の作。

比売久波神社本殿

春日大社摂社若宮神社本殿を移建したもの。一間社切妻造りの妻入りの身舎で、特徴的な春日造の社殿です。江戸時代初めごろに建てられたものと見られ、現存する春日大社古社殿の中でも、最も古いものと考えられます。

旧白米寺の木造不動明王立像

二尺足らずの小像ですが、堂々たる量感を感じさせる彫技があり、鎌倉時代の早い時期の制作と見られる秀作。



糸井神社の結崎の太鼓踊り絵馬

かつて存在していた神宮寺の僧と思われる人物が燈籠に火をつけたり、スイカを振る舞っている様子が描かれており、特に後者は大和平野におけるスイカ栽培の歴史を知るうえで貴重な資料です。太鼓の音は雷を表すことから雨乞いが行われている図柄であることが分かります。天保13年（1842）の作。役場玄関にレプリカを展示しています。

光林寺の本堂及び表門

一時は浄土真宗仏光寺派の中本山格として隆盛した寺で、本堂の鬼瓦の銘からともに江戸時代前期の建造物であることが明らかになりました。

川西町観光マップ

かわにしちょうかんこうまっぷ









散策モデルコース

①結崎駅

近鉄橿原線の駅。川西町の玄関口。

徒歩15分

②面塚

「観世能」発祥の里であることを示した石碑があります。
春は堤防沿いに植えられた桜が一斉に開花し、
たいへん美しい。(詳しくは面塚のページ参照)

徒歩5分

③糸井神社

約千年前の書物にも記載されている
由緒ある神社(詳しくは神社のページ参照)。

徒歩10分

④島の山古墳・比売久波神社

島の山古墳は国の史跡でもあり、
県内でも有数の規模を誇ります。
(詳しくは島の山古墳・神社のページ参照)

徒歩20分

⑤富貴寺・光林寺・六県神社

国・県の指定を受けた仏像や本堂など
歴史ある文化財があります。
(詳しくは文化財のページ参照)

徒歩30分

⑥油掛け地蔵



造立は大永3年(1523年)で、舟型光背の高さが約61センチの地蔵立像です。できものを治してもらうために願をかける日には、油をかける習わし(燃灯供養)があることから、油掛け地蔵と名前がつけられました。

徒歩30分

⑦八幡神社

明治25年建立の鳥居、多数の石灯籠や絵馬が残る神社。
白米寺(廃寺)の収蔵庫があります。

散策モデルコース

迂回コース

※古い町並みや秘仏を保管している社寺を通過します。

川西町の豆知識 聖徳太子の通学路「太子道(筋違い道)」



現在、面塚のあるところの地下にある弥生時代の面塚遺跡や、寺川と大和川の合流地点付近の古墳時代の南吐田遺跡など、また最近発見された6世紀前半の円筒埴輪からみても、川西町が古代から住居地であったことはほぼ間違いないようです。そこで注目されるのが聖徳太子の通学路と言われている「太子道」です。飛鳥の里から川西町を通って法隆寺へ行く最短距離をとるためのもので、当時の条理制、南北の筋に対して斜交する(西へ約20°)ことから「筋違い道」とも呼ばれています。

文化財

	所在地	名称	区分	指定年月日
国指定	唐院	島の山古墳	史跡	平成14年9月20日
	白米寺収蔵庫(下永東城)	木造阿弥陀如来坐像	彫刻	昭和24年2月18日
	同	木造地蔵菩薩立像	彫刻	昭和24年2月18日
	富貴寺(保田)	富貴寺本堂	建造	昭和29年3月20日
	同	木造釈迦如来坐像	彫刻	大正8年4月12日
	同	木造地蔵菩薩立像	彫刻	大正8年4月12日
	光林寺(保田)	木造阿弥陀如来立像	彫刻	昭和24年2月18日
県指定	比売久波神社(唐院)	比売久波神社本殿	建造	昭和42年3月27日
	白米寺収蔵庫(下永東城)	木造不動明王立像	彫刻	昭和44年3月28日
	糸井神社(結崎)	結崎のおかげ踊り絵馬	有形民俗	昭和62年3月10日
	同	結崎の太鼓踊り絵馬	有形民俗	平成6年3月25日
	光林寺(保田)	本堂及び表門	建造	平成17年3月29日
	保田自治会	六県神社の御田植祭(子出来オンダ)	無形民俗	平成18年3月31日

※町指定文化財については、川西町教育委員会社会教育課へお問い合わせください。

年中行事



子出来おんだ祭り

…2月11日/六県神社



糸井神社秋祭り・子ども相撲

子ども相撲…10月第2日曜
秋祭…10月第4日曜とその前日